

とみおかまち



福島県
富岡町

支援員だより

vol.24

【発行日】
2024年11月1日

発行 富岡町県外避難者支援拠点事務所 〒330-0061 埼玉県さいたま市浦和区常盤6-4-21 一般社団法人 埼玉県労働者福祉協議会 内

お困り事など、どうぞお気軽に！
ご連絡待っているっぴ



TEL 048-832-0600

FAX 048-833-8746

MAIL tomioka_saitama@eos.ocn.ne.jp

県外町民の皆様とともに県外避難者支援拠点事務所は10年目を迎えました。

富岡町に住民登録のある福島県外避難者数は、平成27年では約4,300名(約2,300世帯)でしたが、福島県内への移転や富岡町への帰還などにより、令和6年4月現在では約1,700名(約1,000世帯)になりました。

当事務所は開設当初より「避難者の孤立化を防止する」をテーマに活動をしてまいりました。新型コロナウイルス感染症の流行以降、避難者数の減少も相まって交流会などの開催は難しくなりましたが、戸別訪問を活動の柱に据え、日々皆様のお宅にお伺いさせていただいております。特に、令和4年末頃からは、第五次追補に伴う追加賠償の説明と請求に関するお手伝いをさせていただくことが多くなり、いかに県外に避難される方に正しい情報をお届けするか難しい課題ですが益々私たちの存在意義が問われていると強く責任を感じながら努めております。有難いことに「もう帰るのか」「今度はいつ来れるの?」といった支援員冥利に尽きるお言葉を沢山いただき、この場をお借りして御礼申し上げます。

長引く避難生活の中で、帰還を諦めた方の話を聞くこともあります。家族仲良く暮らしている方、悔しい思いを話してくれる方など様々です。支援員が訪問した際にはどんな話でも結構ですのでお話を聞かせてください。町民の皆様とお会いできることを支援員一同楽しみにしております。



かながわ散歩カフェのご紹介



かながわ散歩カフェは、「かながわ東北ふるさと・つなぐ会」と「かながわ避難者と共にあゆむ会」の共催企画です。東北から神奈川県などに避難されている方を対象に神奈川・東京の名所を巡り避難者の親睦と健康づくりを目的として、二か月に一度開催されています。今回は富岡町から避難されている方3名も参加され、有名な茅ヶ崎のサザンビーチを散歩しました。サザンオールスターズのヒット曲「HOTEL PACIFIC」などの歌詞に登場する「烏帽子岩」などを見ることができ、皆さんも満足されていました。また、散歩が終了してから有志でお茶会も開催しております。



お散歩して
お茶会して
楽しいっぴ!

お気軽に参加できる会ですので、近県の方もお気軽に参加いただけます。
参加希望の方は当事務所までご連絡ください。





頑張る富岡町民に エール

峯 洋子さん
(ひたちなか市在住)

アレンジメントフラワー

福島にいた頃は、お花を飾ったり育てたりすることが何より好きで、自宅の所々と庭には花がいっぱいでした。そして突然の東日本大震災で日常生活が一変し、花に関わることができなくなりました。それでも時間の経過とともに少しずつ友達と花を見に行けるようになり、気持ちが前向きになれる自分がいてその時に長い間止まっていた何かが動き出し「大好きだった花がある!! 以前のようにやってみよう」という気持ちになりました。様々な困難がある中、花に集中することで自分の中では一時でも楽しく感じられることに気づきました。あの時の止まった時計がゆっくりですけど、動き出しているいろいろ悩まされることもありますけど、花に勇気をもらって日々頑張っています。



東日本大震災 13年特別企画

ふくしまを未来につなぎ伝え続けよう

渡邊 民子さん
(笠間市在住)

マカロン コインケース・ PPバンド籠



激変してしまった生活の慰めに、お店でかわいい生地を目にした時から絵柄合わせ、カット、小さな布を縫い合わせ完成。無心でチクチク私の楽しい時間になっています。

会場にいらした方々も「とても可愛いらしい」と手に取って見ていただいています。

荷作り用PPバンドで編んだ籠は複雑な編み方で、光沢がいい具合に出ており、買い物籠に最適です。



富岡への想い ～あの日から未来に向かって～

2024年度 杉戸町・富岡町合同平和企画展

富岡への想い ～あの日から未来へ向かって～

スタジオジブリ絵職人

男鹿和雄氏が描く友好都市富岡町の前原を展示中



企画展は、当時中学生だった方たちの故郷・福島への想いを綴った詩にスタジオジブリの絵職人が挿絵を付けた詩集である「第二楽章 福島への想い」を中心に富岡町の思い出や震災後の想いなどの詩が挿絵と共に展示されていました。会場には、その詩を吉永小百合さんが朗読されたCDの音声がありました。CDの収益金は被災者のためにすべて寄付されています。また、同時開催の「世界のヒバクシャ展」では、ウランの採掘・核実験・戦闘訓練などで被爆された方の証言も掲載されていました。企画してくださった杉戸町をはじめ、13年経った今もなお、時間が過ぎた今だからこそできることを様々な方が後世に語り継ぐ教訓や風化防止を胸に福島に心を寄せて下さっていることに感謝申し上げます。

